

都市における母子保健サービスの研究

井澤方宏¹⁾ 久保秀史²⁾ 宇留野勝正³⁾
川崎市幸・中原・多摩・麻生の各保健所

要約：都市における母子保健サービスのあり方について川崎市をモデルに検討した。①保健所の乳幼児健診受診者35,744人中問題のあった者は20.1%で、その半数は育児上の問題である。②育児をとりまく実態調査を行った結果71.2%が育児上の問題で困ったことがあると答え、23.8%の母親が心身何れかの不調を訴えている。また、77.4%が育児について相談しあう仲間づくりを希望していた。③育児の仲間づくりをめざして育成した43の育児グループの参加者449人を調査した結果70.9%に育児や健康生活上望ましい変化がみられた。グループ育成のきっかけは58.1%が母親学級や健康診査、健康教室からである。

現在、母子保健対策は健康診査に重点がおかれているが、発生予防や健康づくりの観点から、健康教育や個別相談も充実強化し体系化すると共に、電話による育児相談や育児グループ育成を母子保健の中に位置づけ事業化することが望まれる。

見出し語：乳幼児健康診査事後指導、育児問題実態調査、育児グループ育成結果

研究方法：1. 初年度は、11大都市の母子保健指標比較と川崎市の母子保健サービスの現状分析を行った。また、育児の仲間づくりを目指しグループ育成について、川崎市内の4モデル保健所で実践を開始した。

2. 次年度は、母子をとりまく都市の特徴的問題を把握するため、昭和62年11月、12月の2ヵ月間、川崎市内の全保健所9ヵ所で妊婦1,948人（回収率86.1%）と3ヵ月児の母親1,872人の（回収率84.5%）の実態調査を行った。また、保健所で受理している電話による育児相談716件の内容分析を実施するとともに、育児グループ育成の概要を調査した。

3. 本年度は、昨年度にひきつづき育児をとりまく問題状況の実態を把握するため川崎全市の保健所で昭和63年5月、6月の2ヵ月間に1歳6か月児と3歳児健診に来所した母親に調査票を配布し、郵送により回収、1歳6か月児1,113人（回収率59.1%）、3歳児1,049人（回収率57.1%）の回答を得た。

また、育児グループ育成の評価を行うため今回育成したグループの参加者449人（回収率82.5%）にアンケート調査を行った。また、グループの概要と育成結果について地区担当保健婦のアンケート調査を行った。

1)川崎市衛生局 Bureau of public health Kawasaki city

2)元上智大学教授 Former professor Sophia Univ

3)元東京家政大学教授 Former professor Tokyo Kasei Univ

結果：1. 川崎市の保健所で実施している乳幼児定期健診と事後指導の状況は図1のとおりである。3ヵ月児96.1%、1歳6か月児82.8%、3歳児84.8%と何れも高い受診率を示している。

また、二次健診フォローも体系的に行っている。健診の結果問題ありと判定されたものは、20.1%で約半数は育児上の問題である。育児上の問題に対する事後指導は、個別に対応する母子コーナーや赤ちゃん相談の他、心理職、体育指導員、保母をスタッフに加えた「ちびっこ健康教室」を開催し、親子体操や育児の話合い等体験学習をとり入れている。また、近年増大するアレルギー疾患を予防するため、健診場面でアレルギー素因の有無を把握し、保健指導を行うと共に、ぜん息予防教室やアレルギー相談につなげている。

2. 育児をとりまく実態調査結果

(1) 母子をとりまく生活背景は、表1及び図2～6のとおりで、核家族や専業主婦の割合が乳幼児では何れも8割を越えている。また、父親の帰宅時間は早い時でも21時以降になるものが30%以上で遅い時では、60%以上が21時以降に帰宅している。(2) 育児に困った事がある者は、71.2%であった。(3) 母親が育児に困った内容は、表2に示すとおりである。困ったことのワースト3は、3ヵ月児では、①泣くこと、②お乳が足りているかどうか心配、③自分の時間がないで、次いで吐くこと、体重増加や飲まない等、食事を中心とした心配が多かった。1歳6か月児では①自分の時間がない、②小食、③目が離せないで、遅くまで起きている、あと追い、指しゃぶり等日常生活や、行動面での心配が続

いている。3歳児では、①小食、②自分の時間がない、③夜遅いで、次いで落ち着かない、乱暴、友達がいない、友達と遊べない等社会性に関する心配が多くなっている。(4) 困った時の相談相手は、先ず夫で子供の年齢とともに増加している。次いで多い相談相手は、3ヵ月児では両親だが、幼児期では、友人が多くなっている。医師や保健婦に相談する者は両方合わせて3ヵ月児で48.6%、1歳6か月児で49.7%、3歳児で39.1%となっている。医師への相談は幼児期ではやや増えているが保健婦への相談は年齢と共に減少している。(5) 1歳6か月児の母親の77.4%は、育児について相談しあう仲間づくりを希望しており、60.3%の者は、買い物や、美容院、病院への通院、学校、幼稚園行事教養講座参加等で子供を預ってくれる所があれば利用したいと答えている。(6) 母親の健康状態は表5の通りである。精神又は、身体的に何らかの不調を訴えている者は1歳6か月児では23.8%、3歳児では23.6%であった。

3. 育児グループ育成結果について

(1) 育児の仲間づくりを目指して育成したグループは、43で、昨年より14グループ増加した。(2) 地区担当保健婦に対するアンケート調査結果は、つぎのとおりである。グループが出来たきっかけは、母親学級受講後23.3%、1歳6か月児健診後25.6%、3歳児健診フォローのちびっこ健康教室等9.3%で保健所事業をきっかけとしたものが58.1%を占めている。残りは地区からの要望23.3%、保健婦が住民や子供文化センター（児童館）に働きかけたもの18.6%であった。集まる回数は、週1回以上が37.2%、月2

～3回が27.9%，月1回が27.9%であった。1回平均参加者数は昨年同様30人前後にピークがあった。活動内容は、複数回答で体験学習88.4%，育児についての話し合い83%，行事69.8%，育児相談23.3%，計測9.3%，その他講演会，学習会，施設見学等である。参加職員は保健婦が中心で必要に応じ，心理職，体育指導員，保母等雇上げ職員や，医師，助産婦，栄養士，歯科衛生士等が参加している。

地域関係機関職員が参加しているのは，子供文化センター44.2%，助産院4.7%であった。プログラムはグループ員が参加してきめているもの83.7%で，主として保健所職員がきめているものは16.3%であった。会場準備や後かたづけは，グループ員が行っているもの74.4%，グループ員と職員が共同で行うもの11.6%である。司会進行は当番制62.8%，グループリーダー18.6%で，81.4%は，グループ員主体で行われている。反省会をやっているところは88.4%，会報を出しているところは，32.6%である。

お世話係は，88.4%のグループで決めており，当番制65.8%，となっている。また，役員の交替は順番42.1%，話し合い36.8%となっている。グループ活動で保健婦が配慮している点は，複数回答で問題点や気づきの顕在化する他55.8%，体験した感想を出しあう48.8%，個別のなやみをグループ員になげかける44.2%，参加者同士知りあえるように意図的に働きかける41.8%，参加者の力を引き出すような働きかけ41.8%等となっている。保健婦からみてグループ育成の目標が達成されたもの65.1%で，効果ありは4.7%，達成されないは11グループ25.6%，達成さ

れない理由は，リーダーが決まってなく依存的，役員が手を出しすぎ，発足後間がない，健康へ結びつける内容が不十分等となっている。グループとしての発達レベルは，保健所で用意したプログラムに基づく学習段階のもの9.3%，自立運営に達しているもの65.1%で他はその中間に位置している。

グループ活動は，保健婦にとって楽しい，役立っていると答えたものは58.1%で，負担だが楽しい16.6%，非常に負担4.7%であった。保健婦からみたグループ活動の今後の課題は，個々の母親が力量をつける為の援助の在り方，グループの継続や自立性を引き出す援助，運営上の工夫，会員の交替時の対応，保健所のかかわる意義，独自性，関係機関との連携協力，役割分担グループとしての自立のゴールをどこにおくのか等が出されている。

(3) 育児グループ参加者に対して行ったアンケート調査449人の結果はつぎのとおりである。

グループ参加者の学歴は，表6のとおりで，全市平均と比べ短大卒，大卒の占める割合が高くなっている。また，何らかの資格を持っている者は，186人(37.3%)でそのうち，教員46.2%，保母，幼稚園教員21.5%，看護職，7.0%薬剤師5.9%栄養士4.8%で，教育や医療関係の資格を持つ者が多かった。参加理由は複数回答で育児の経験交流60.7%，集団に馴染ませたい36.5%，友達がほしい32.3%，育児の仕方を学びたい28.7%，子供との対応の仕方，遊ばせ方を知りたい28.6%，健康づくりに役立てたい18.0%，発達や言葉が心配11.5%，友達と遊ばない7.2%，生活時間を整えたい2.8%となっ

ている。参加後、育児や生活面で変化した人は70.9%で、変化の内容(複数回答)は、子供の力や状態が解るようになった53.7%、外出や散歩、外遊びが多くなった43.8%、子供の気持ちを考える大切さが解かった40.1%、子供と遊ぶことを楽しむようになった37.3%、子供のやることを待てるようになった20.9%、その他公園にでかけたり、子供と遊ぶ時間が多くなった、テレビの時間が減った、生活が規則正しくなった、健康に気をつけるようになった、楽しく食事するようになった等である。

グループ参加後、夫と子育ての話題が広がったものは79.6%、人とのつきあいが増えたものは81.4%である。続けて参加したいと答えたものは89%で、その理由は他人の経験が役立つ61.5%、参加して楽しい60.6%、子供の対応の仕方が解る58.6%、友達が出来た58.3%、子供がいきたがる36.3%、気軽に相談できる32.4%、遊ばせ方を知りたい30.0%、友達と遊べるようになった26.1%、気持ちにゆとりができた25.9%、子供がいきいき変わった21.8%、子供をあづけ合う友達ができた11.9%、健康を考えるうえで役立つ7.2%、生活が規則的になる3.8%である。

会の為に役割をになっているものは68.3%で、その内容は企画、運営、グループのPR、新会員への目くばり、会報発行等である。

今後充実してほしい内容としては、遊びや行事の充実、親同志の交流、子供のあづけ合いや他グループとの交流、育児や健康に関する交流をあげている。

その他グループが発展するための課題として

個々の参加姿勢や、グループ構成、親同志の他グループとの交流の充実、リーダー等役割分担のありかたやメンバー交替等についても積極的な意見が出された。

考 察

育児をとりまく実態調査の結果、専業主婦が8割以上を占めているにもかかわらず各年齢共通した育児上のなやみとして、自分の時間がないことをあげている。(3ヵ月児 4.3人に1人、1歳6ヵ月児 2.4人に1人、3歳児 3.4に1人)

家事労働時間が短縮され、紙オムツや既成の離乳食等、育児関係用品が利用されているにもかかわらず、8割以上が核家族で、夫の帰宅時間が遅く近所づきあいも少ないなど、育児を交替してくれる人もない中で自分の時間が持てず精神的にも身体的にも負担を感じている母親像が浮びあがってきた。その結果育児の仲間づくりや、一時保育に対する高い要求となって現れているものと思われる。

育児グループ育成は、こうした育児の仲間づくりを望む母親のニーズに合致しており、参加中の母親から「話し合いをもっと取り入れてほしい」、「他のグループと交流をもちたい」との要望が出されている。同年代の母と子が一緒に集い、他者との交流を通じて母子とも良い影響を受けていることが参加者のアンケートから読取れる。教員や保母、医療関係の有資格者も予想以上に潜在しており、こうした有資格者がグループ活動に積極的に参加していることと、そうした力を意図的に引きだした結果が、自主グループへと結びついていることがうかがわれた。 今後は、子供文化センターや保育園との

連携をとりながら地域の中で母親達が集まれるコミュニティセンター（都市母子健康センター）等も必要である。

育児グループ育成は、母親学級や乳幼児健診健康教室から動機づけられているものが多いことから生涯健康づくりの一環として、母子保健の中に位置づけ事業化することが望まれる。

まとめ

1. 指定都市の母子保健指標の推移を見ると全国平均に比較し死産率、及び2,000g未満の出生率の高い都市が多く、一部には全般的に劣っているところもみられた。

また、川崎市の場合をみると全市の平均値は全国水準以上であっても、旧市街地・商店街と周辺のベットタウンでは指標のバラツキがあった。同一都市内でも地域差がありスケールの影にかくれた問題があることが解った。このことは、その都市の発展過程や都市化現象から生ずる社会・経済的要因がからんでいるものと思われる。

2. 都市は、生産年齢人口が集中し、人口移動率も高い。川崎市の妊産婦や乳幼児をもつ母親の実態調査結果から、居住歴が短く、核家族の割合が高いこと等、都市の母子保健需要が高いことが解って都市住民の需要に対応した独自の対策が必要と思われる。

3. 都市の母子保健対策の試みとして、「母親の育児力を高めるための仲間づくり」を目指して、母親同志の交流の場の確保についてモデル的な事業を行った結果、3年間で43の育児グループが育成された。

4. 以上の結果次の提言を行いたい。

①母親同志の交流の場の確保として、保健所のサテライト機能を持ち、身近な場所で母親たちが交流出来る200ヵ程度コミュニティセンターを人口20,000～30,000に1ヵ所設置し、育児相談や電話相談も出来るような施設整備、機材の助成が望まれる。

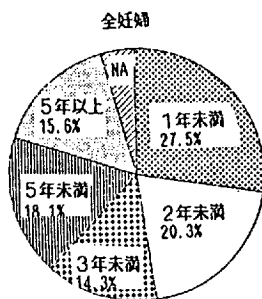
②また、自主的な育児力をつける為の健康教育学習や電話相談等の活動費について、国及び地方自治体の補助が望まれる。

③今回の研究結果を踏まえ、全国にモデル地区を設け実施されることを期待する。

表1 育児をとりまく実態調査結果

| | | 妊婦 | 産婦(3カ月児) | 1歳6か月児 | 3歳児 |
|------|-------------|-------|----------|--------|-------|
| 配回数 | 回数 | 2,229 | 2,216 | 1,883 | 1,816 |
| 回数 | 回数 | 1,948 | 1,872 | 1,113 | 1,049 |
| 回数 | 率 | 86.1 | 84.5 | 59.1 | 57.8 |
| 家族 | 核家族 | 87.4 | 86.5 | 83.8 | 80.8 |
| 職業 | 専業主婦 | 73.3 | 88.3 | 86.3 | 81.7 |
| 父の帰宅 | 早いときでも21時以降 | 32.4 | 32.0 | 43.4 | 33.2 |
| 帰宅 | 遅いときは " | 62.0 | 60.5 | 68.0 | 65.9 |
| 就寝時間 | 子供22時以降 | - | - | 37.3 | 30.6 |
| | 母親23時以降 | 68.2 | 86.7 | 80.7 | 77.9 |

図2 居住歴



初妊婦

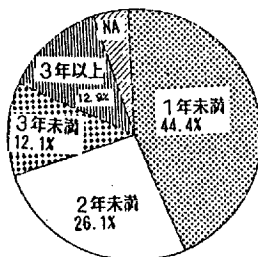


図3 居住形態

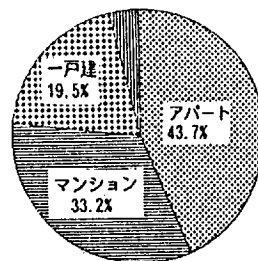


図4 夫と食事

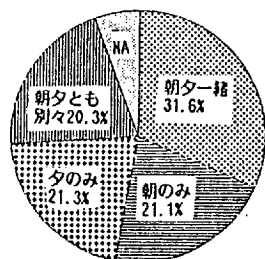
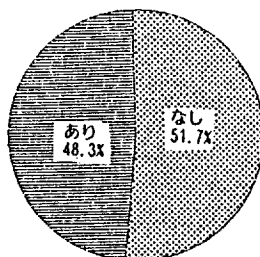


図5 気軽に声をかけ合える知合い

初妊婦



初産婦

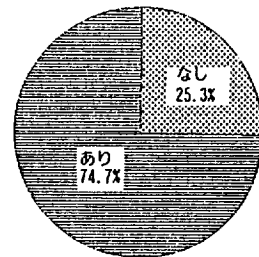


図6 外出・散歩

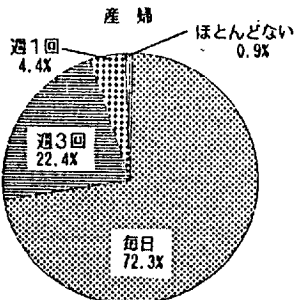
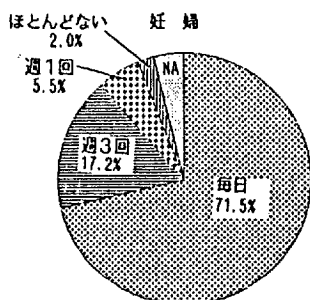


図7 学歴

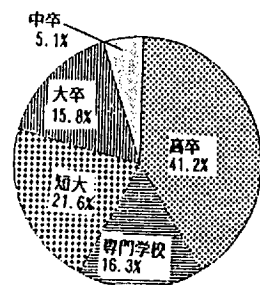


表2 母親が育児で困った内容

| 3か月児 | | 1歳6か月児 | | 3歳児 | |
|-----------|-------|------------|-------|---------|-------|
| 泣くこと | 27.8% | 自分の時間なし | 41.2% | 小食 | 34.9% |
| 自分の時間なし | 23.5 | 小食 | 33.1 | 自分の時間なし | 29.3 |
| お乳が足りているか | 24.9 | 目が離せない | 30.8 | 夜遅い | 24.9 |
| 吐くこと | 15.3 | 夜遅くまで起きている | 27.8 | 落着かない | 19.3 |
| 病気 | 13.8 | あと追い | 28.3 | 体重増えない | 14.8 |
| 体重増加 | 12.0 | 指しゃぶり | 23.6 | 乱暴 | 13.3 |
| お乳飲まない | 6.9 | ことば遅い | 15.7 | お漏らし | 12.8 |
| 目も手も離せない | 4.0 | 体重増えない | 14.9 | 友達がいない | 12.5 |
| | | 断乳できない | 8.6 | 身長伸びない | 9.4 |
| | | 夜泣き | 7.6 | 言葉の心配 | 6.9 |
| | | 病気 | 6.5 | 病気がち | 6.1 |
| | | 肥満 | 3.5 | 友達と遊べない | 5.1 |
| | | | | 肥満 | 3.4 |

育児で困ったことあり

| | |
|--------|-------|
| 3か月児全員 | 71.2% |
| 初産 | 83.5 |
| 経産 | 58.5 |

表3 困った時の相談相手(重複回答)

| | 3か月児 | 1歳6か月児 | 3歳児 |
|-----|-------|--------|-------|
| 夫 | 55.9% | 89.1% | 91.3% |
| 友人 | 33.5 | 83.2 | 81.4 |
| 両親 | 51.1 | 67.6 | 61.5 |
| 医師 | 28.8 | 36.7 | 31.1 |
| 姉妹 | 15.6 | 31.5 | 33.8 |
| 保健婦 | 19.8 | 13.0 | 8.0 |

* 相談しあう仲間づくり希望 77.4%

* 子供を一時的に預かってくれる所があれば希望したい 60.3%

表4 母の健康状態

| | 1歳6か月児 | 3歳児 |
|-------------|--------|-------|
| 心身とも快調 | 55.3% | 56.5% |
| 身体良いが精神的(-) | 12.1 | 11.6 |
| 精神的良いが身体(-) | 7.5 | 8.2 |
| 心身とも良くない | 4.2 | 3.8 |
| 何ともいえない | 20.2 | 18.6 |

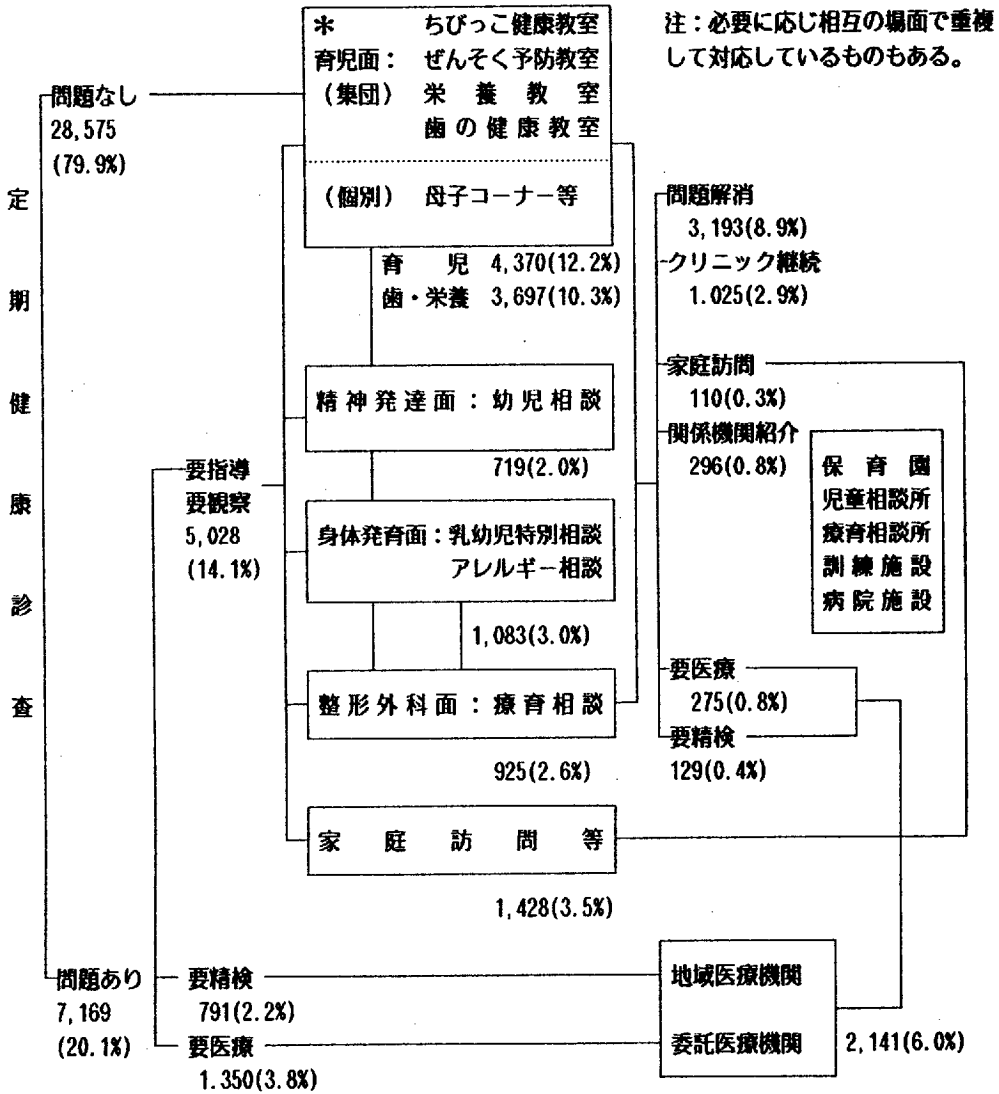
表5 グループ参加者と全市妊婦の学歴

| | 計 | 中学卒 | 高卒 | 専門学卒 | 短大卒 | 大学卒 | NA |
|---------|--------|-----|------|------|------|------|-----|
| グループ参加者 | 100.0% | 0.6 | 38.5 | 13.4 | 23.8 | 21.0 | 2.6 |
| 全市平均 | 100.0 | 4.5 | 41.2 | 16.3 | 21.6 | 15.8 | 0.6 |

図1 乳幼児定期健康診査における事後指導の状況（62年度）

健診数計35,744

保健所

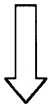


乳幼児定期健康診査（保健所実施分）

| | 対象者数 | 受診者 | 受診率 |
|--------|--------|--------|------|
| 計 | 40,630 | 35,744 | 88.8 |
| 3か月児 | 13,798 | 13,257 | 96.1 |
| 1歳6か月児 | 13,421 | 11,115 | 82.8 |
| 3歳児 | 13,411 | 11,372 | 84.8 |

*育児面（集団）

| | 計 | 17,985(50.3%) |
|----------|-------|---------------|
| ちびっこ健康教室 | 2,493 | (7.0%) |
| ぜんそく予防教室 | 291 | (0.8%) |
| 栄養教室 | 8,215 | (23.0%) |
| 歯の健康教室 | 6,986 | (19.5%) |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:都市における母子保健サービスのあり方について川崎市をモデルに検討した。保健所の乳幼児健診受診者 35,744 人中問題のあった者は 20.1%で、その半数は育児上の問題である。育児をとりまく実態調査を行った結果 71.2%が育児上の問題で困ったことがあると答えており 23.8%の母親が心身何れかの不調を訴えている。また、77.4%が育児について相談しあう仲間づくりを希望していた。育児の仲間づくりをめざして育成した 43 の育児グループの参加者 449 人を調査した結果 70.9%に育児や健康生活上望ましい変化がみられた。グループ育成のきっかけは 58.1%が母親学級や健康診査、健康教室からである。現在、母子保健対策は健康診査に重点がおかれているが、発生予防や健康づくりの観点から、健康教育や個別相談も充実強化し体系化すると共に、電話による育児相談や育児グループ育成を母子保健の中に位置づけ事業化することが望まれる。